フロンティアスクール中間報告書

都道府県名	福井県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	福井県 鯖江市東陽中学校					
学　年	１年	２年	３年	特殊学級	計	教員数
学級数	４	４	４	０	１２	２７
生徒数	１３３	１３２	１４３	０	４０８	

Ⅱ　研究の概要

１　研究主題

自ら課題を見つけ，意欲的に問題解決をしようとする生徒の育成

２　研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全教科で学力向上の取り組みを進めたが，次の３教科を重点的に取り組む教科とした。

①　数学（少人数指導・習熟度別学習，　ＴＴ）　全学年
・理解度に差が出やすく，そのことで生徒が苦手意識を持ちやすい教科であるため
・中学校数学の基礎段階での１学年で，理解度に合わせて学習に入ることが効果的であるため。
・生徒たちのつまずきの把握が特に重要であるため。

②　英語（少人数指導，　ＴＴ）　全学年
・中学校で初めて学習する教科であり，導入段階の第１学年できめ細かな指導をする必要があるため。
・学習の進んだ３学年で，少人数指導で話す・聞くなど実際に英語を活用する学習を充実させることが重要であると考えるため。

③　理科（ＴＴ）　全学年
・実験をともなう学習があり，きめ細やかな指示が必要な場面が多く，結果のまとめ方など個別に支援することが多い教科であるため。

(2) 年次ごとの計画

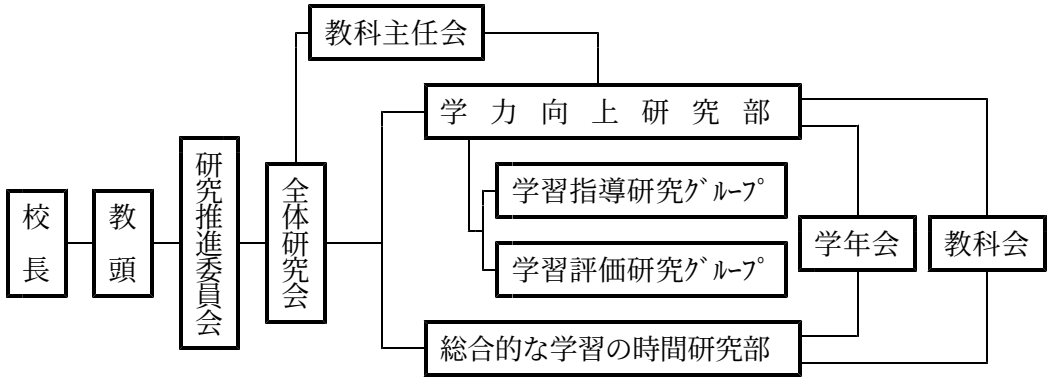
平成14年度	○ テーマ　　一人ひとりに応じた学習指導のあり方の研究 ～自ら学ぶ意欲を育てるために～ ○ 研究の見通し（仮 説） ① 「わかる授業」の実践のため，指導方法の工夫・改善に努力し，少人数指導やＴＴなど指導形態についての研究実践の充実を図り，基礎・基本の定着に努力する。 ② 各教科等での評価規準の確立をはかり，生徒に学習に対するめあてを明確にするとともに，主体的な学習態度の育成に努める。 以上のことを進めることにより，学力の向上を図ることができると考える。 ○ 研究の内容・方法 ① 全教科で学力向上に取り組む。

	数学・理科・英語は重点研究教科として，指導法の工夫・改善および少人数指導・ＴＴ指導など学習形態のあり方について実践研究を進める。 ② 校区内の小学校や市内の中学校に研究協力員を依頼して，連携を深め，指導の連続性を持たせながら研究を進める。

平成15年度	○ テーマ　　自ら課題を見つけ，意欲的に問題解決をしようとする生徒の育成 ○ 研究の見通し (1) 生徒が主体的に学習したり活動したりするための，個性等に応じた指導の工夫改善 (2) 生徒の学習意欲を高めるための，共に学び合い深め合う場の設定と指導の工夫改善 (3) 家庭・地域などとの連携教育を図った，特色ある教育課程の工夫 の，３点を研究の柱として掲げて取り組む。 ○ 研究の内容・方法 次のような研究グループを設けて取り組む。 ① 学習指導研究グループ ・ 家庭学習への取り組みや各学年の基礎基本を身に付けさせるための研究 ・ 課題学習などに関する研究 ・ 選択教科の多様なコースの開設のための研究 ・ 習熟度別学習・少人数学習・ＴＴ学習に関する研究 ・ 身に付けた知識・技能などを総合的な学習の時間に生かすための研究 ② 学習評価研究グループ ・ 評価の客観性・信頼性を高めるための評価方法の研究 ・ 学期ごとに評価の見直しを図り，指導と評価の一体化を目指した評価の研究 ・ 総合的な学習の時間で獲得した力を確認し，確かな学力につなげるための評価の研究 ③ 総合的な学習の時間研究部 ・ 生きて働く力とするための場の設定と各教科等との連携教育の研究 ・ 保護者や地域の人材を中心とした専門家の活用の場の設定と指導体制の研究 ・ 特色ある教育課程の工夫の推進とその成果を広く知らせるための研究

平成16年度	○ テーマ　　自ら課題を見つけ，意欲的に問題解決をしようとする生徒の育成 ○ 研究の見通し ① 学習指導法の工夫・改善により基礎的・基本的な内容の定着を図るとともに発展的学習や課題学習にも意欲的に取り組む生徒の育成に努める ② 評価法の工夫・改善により，評価を生かした授業改善に取り組むとともに，生徒たちの学習に対する目的意識や意欲が高まるように努める。 ③ 総合的な学習の時間と教科等との連携に努める。 以上のことにより，学力の向上を図ることができると考える。 ○ 研究の内容・方法 ① 小中の連携の成果を生かし，生徒が意欲的に取り組む学習教材の開発を進めるとともに，公開授業等を開催して研究成果の普及に努める。 ② 少人数指導やＴＴ指導などにおいて，一人一人の能力を伸長させるとともに自ら学ぶ意欲の育成、共に学び合う学習集団づくりの研究を進める。 ③ 総合的な学習の時間と教科等が連携した，新しい学習教材や指導形態を開発する。

(3) 研究推進体制



＊改善点

① 学力向上研究部の充実のために，その下に学習指導研究グループと学習評価研究グループを置いた。

② 学力向上研究部と総合的な学習の時間研究部の連携を強めるために教科会を間に置いた。

Ⅲ 平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１ 研究の成果

＜数学科＞

(1) 実践内容

① 習熟度別少人数クラス（１学年）

・クラス分けは，単元毎に本人の希望を考慮して行った。

・アドバンスコースでは，発展的な問題を取り入れ，自作プリントも使用した。

・じっくりコースでは，基本問題に取り組み，個に応じた指導に時間をかけた。

② Ｔ・Ｔによる指導（２・３学年）

・週１時間，主に各単元の導入部分で取り組んだ。

・Ｔ１が全体指導を行い，Ｔ２は下位の生徒の個別指導にあたった。

② ３年選択教科での取り組み

入試問題などの発展的な内容と，計算などの基礎的な内容の２講座を開設した。

(2) 成果

① 少人数指導

・一人一人の学習状況がつかみやすく，それに応じた指導ができた。

・生徒同士で教え合う姿や気軽に質問する態度が見られ，授業に活気が出た。

・生徒が自分のペースで学習が進められ、理解が深まった。

② Ｔ・Ｔ指導

・理解不十分で困っている生徒への対応が迅速にできた。

・Ｔ１が指導に専念でき，Ｔ２は個別に生徒の心に届く指導に専念できた。

・教師同士で指導法の研究ができた。

③ ２学年の追跡調査結果（1授業内容がほとんど理解できた 2だいたい理解できた）

昨年度 … 1 ２２％ 2 ６０％

今年度 … 1 ４０％ 2 ５１％

＜理科＞

(1) 実践内容（Ｔ・Ｔ指導）

・１，２学年 …… 週３時間ともＴ１が一斉指導，Ｔ２が補助・支援の形で個別指導

・３学年　　……　週１時間Ｔ１が一斉指導，Ｔ２が補助・支援の形で個別指導

(2) 成果（特に効果の上がった指導形態と学習内容）

① Ｔ１が一斉指導，Ｔ２が個別指導

・実験観察の確認，操作と後始末の指導，授業内容指示の徹底・補充

・練習問題での個別指導（例：エネルギーの移り変わり，グラフ作成など）

② Ｔ１，Ｔ２とも個別指導

・実験時の机間指導やノートチェック（例：顕微鏡による観察）

・実験後の考察の評価と指導

・実験実技テスト（二人の指導者がいることによって可能となった）

③ Ｔ１実験，Ｔ２板書による指示やまとめ

・演示実験など

④ ２学年の追跡調査結果（1授業内容がほとんど理解できた 2だいたい理解できた）

昨年度　…　1　２６％　　2　６０％

今年度　…　1　３９％　　2　４６％

＜英語科＞

(1) 実践内容

① 少人数指導（３学年）

・週３時間，各クラスを等質クラスに２分した。

・ペア練習やグループ活動を頻繁に取り入れた。

② Ｔ・Ｔ指導（１・２学年）

・Ｔ１が主になって授業を進め，Ｔ２は個別指導にあたった。

・Ｔ１とＴ２がペアになり，基本文の導入や言語活動の実演を効果的に行った。

(2) 成果

① 少人数指導

・基本文の反復練習や対話練習が繰り返しできた。

・音読テスト（評価活動）が１時間内で実施できた。

・人数が少ないことであまり緊張せずに英語を話すことができた。

② Ｔ・Ｔ指導

・いろいろな言語活動が自然な形で導入できた。

・生徒に目が行き届き，下位の生徒への指導が行き届いた。

③ ３学年の追跡調査結果（1授業内容がほとんど理解できた 2だいたい理解できた）

昨年度　…　1　１９％　　2　４０％

今年度　…　1　２３％　　2　５０％

＜総合的な学習の時間＞

身に付けた知識・技能などを総合的な学習に生かすために，各教科で総合的な学習との連携を常に頭に置いて取り組むことができた。

・国語科と連携した事例　　ＮＩＥを取り入れた授業「ヒートアイランド」

2　今後の課題

今年度は自己点検・自己評価を積極的に行い，研究会などで幾度も話し合いを重ねて指導の工夫改善などに努めてきた。しかし，評価についてはまだまだ研究すべき点がいくつも浮かび上がってきている。また，発展的学習・補充学習などの教材の開発工夫の点においても研究すべき点が多い。来年度は三年目になるので，さらに気を引き締めてこれらの課題に取り組んでいきたいと考えている。

Ⅳ　学力把握のための学校の取組み

①　県の実施する定期的な学力調査を中心として活用し，前年度との比較の中で，学力の把握に努める。
②　校内の定期テストの問題を工夫し，単元ごとの小テストを活用して，学習目標への到達度の把握に努める。
③　定期的に意識調査（生徒・保護者・教職員）を実施するとともに，担任，教科担任による，生徒たちの学習への取組みの実態を観察し，分析する。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての成果の普及について

(1) 公開授業研究会の実施および開催予定
①　平成１４年度
　１０月２１日（木）　公開授業研究会　　数学　＜ＴＴ指導＞
　　１月２４日（金）　県教務主任研修会で実践発表
②　平成１５年度
　　６月２６日（金）　公開授業研究会　　理科　＜ＴＴ指導＞
　１１月２０日（木）　公開授業研究会　　数学　＜少人数指導＞
③　平成１６年度
　　６月１６日（水）　公開授業研究会予定　　全教科
　１１月１８日（木）　公開授業研究会予定　　理科・英語・数学

(2) 取組みの状況・実績等の公表
①　本校の研究紀要「成蹊」に掲載する。
②　公開授業等の様子はＨＰに掲載する予定である。
　ＵＲＬ　http://www.sabae.ed.jp/~jh-toyo/
　E-mail　toyo@sabae.ed.jp

◇　次の項目ごとに，該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　□ １５年度からの新規校　☑ １４年度からの継続校

【学校規模】　□ ３学級以下　□ ４～６学級
□ ７～９学級　☑ １０～１２学級
□ １３～１５学級　□ １６学級以上

【指導体制】　☑ 少人数指導　☑ Ｔ．Ｔによる指導
☑ その他（外部講師）

【研究教科】　☑ 国語　☑ 社会　☑ 数学　☑ 理科
☑ 外国語　☑ 音楽　☑ 美術　☑ 技術・家庭
☑ 保健体育　☑ その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　☑ 有　□ 無